

第6章

地域別構想

6-1. 地域別構想の概要

(1) はじめに

■地域別構想の目的

地域別構想は、全体構想に沿って、各エリアのまちづくりの方針等を定めるものです。
各エリアでは、以下の内容について記載しています。

◇現況

⇒人口・世帯数などの地域の現状を示しています。

◇地域別懇談会の意見（課題）

⇒各地域で開催した地域別懇談会でのご意見を示しています。

◇将来像

⇒「めざすべきまちの姿」として各エリアの将来像を示しています。

◇方針

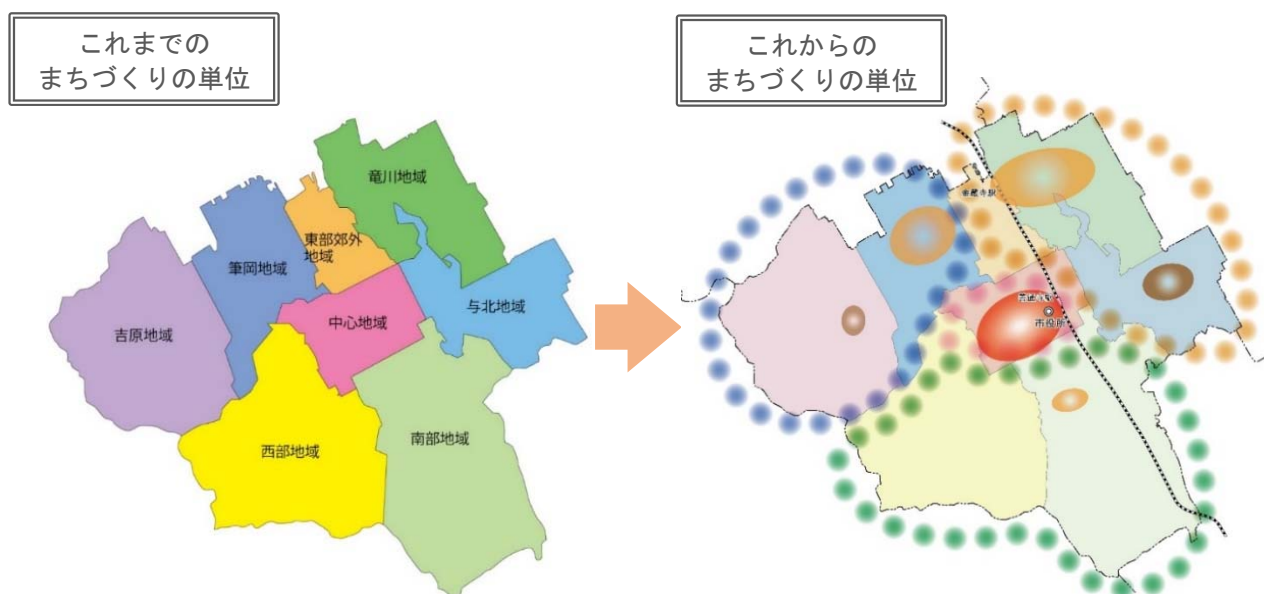
⇒「にぎわい・活力」、「資源・環境」、「暮らし・安全安心」の観点から、各エリアの将来像を実現するための方針を示しています。

■まちづくりの単位

これまで、本市のまちづくりは8つの地域単位で行われてきました。8つの地域は、市民に広く認知されている自治会単位をベースとしています。

しかし、人口減少による地域コミュニティの衰退、財政状況の悪化による公共施設の縮減等、これまでの単位でまちづくりを行っていくことが難しくなっています。

そのため、これまでの8つの地域区分を4つのエリアにまとめたうえで、これからのまちづくりを進めていきます。各エリアには、それぞれに拠点を配置します。



(2) エリア単位でのまちづくりのメリット

■地域のにぎわい・活力について

本市では、ほとんどの地域で人口が減少傾向にあります。また、増加傾向にあった竜川地域・筆岡地域では、維持・微減傾向に転じています。こうしたなか、若い方の流出や少子高齢化による担い手の減少も顕著です。エリア単位でまちづくりを行うことで、担い手の確保が期待されます。

また、商業施設や医療施設が不足している地域があります。こうした地域では、自動車がなければ生活していくことができず、今後の高齢化の進展により、生活利便性はますます低下することが危惧されます。エリア単位で拠点に都市機能を集約することで、生活利便性の確保が期待されます。

■地域の資源・環境について

東エリアにおける金倉川、西エリアにおける筆ノ山・我拝師山、南エリアにおける大麻山等、地域を越えて保全・活用に取り組むべき資源が豊富にあります。一方で、こうした地域資源は十分に活用されていない状況にあります。エリア単位でまちづくりを行うことで、地域資源を介したまちづくりが一層進展することが期待されます。

東エリアの各地域において、中心地域や丸亀市に近いところで無秩序な開発が進みつつあります。西エリアや南エリアの各地域では、優良農地の農地転用や耕作放棄地の発生が進みつつあります。エリア単位でまちづくりを行うことで、これらの土地利用に対して、広域的な視点から規制・誘導を検討していくことが期待されます。



地域を超えたエリア共通の地域資源（左から金倉川・五岳山・大麻山）

■地域の暮らし・安全安心について

市民バスが市全域を網羅しているものの、日便数が少ない場所がある等、地域における公共交通の利便性に差が生じています。今後の高齢化の進展を見据え、生活圏内の公共交通を強化する等、新たな公共交通のあり方を検討する必要があります。エリア単位でまちづくりを行うことで、公共交通をより身近に利用することを可能とする運営体制の検討が期待されます。

地域によっては、指定避難所が少ない、また福祉避難所がないなど、災害時の避難体制が弱いところがあります。エリア単位でまちづくりを行うことで、指定避難所や福祉避難所を、地域を越えて運営・活用していくことが期待されます。

6-2. 中心エリア

■現況

平成12年に9,748人だった人口は、令和2年に7,652人（平成12年の約78.5%）にまで減少しています。世帯数も減少傾向にあります。人口・世帯数とも、減少傾向は緩やかになっています。

高齢化率（老年人口の割合）は、平成12年の22.0%から、令和2年には29.3%に増加しています。一方、年少人口の割合は減少傾向にあります。

就業人口は全体的に減少傾向であり、平成12年から令和2年の間に、896人減少しています（平成12年の約80.9%に減少）。



町丁名 構成	上吉田町、上吉田町1～8丁目、善通寺町1～7丁目、中村町1丁目、文京町1～4丁目、生野本町1～2丁目、南町1～3丁目、仙遊町1～2丁目、生野町の一部
基礎指標 (令和2年 国勢調査)	面積： 約482ha
	人口： 7,652人
	世帯数： 3,245世帯
	年少人口割合： 9.4%
	老年人口割合： 29.3%
	就業人口： 3,799人

※生野町のデータは、建物棟数で中心エリア・南エリアに分分

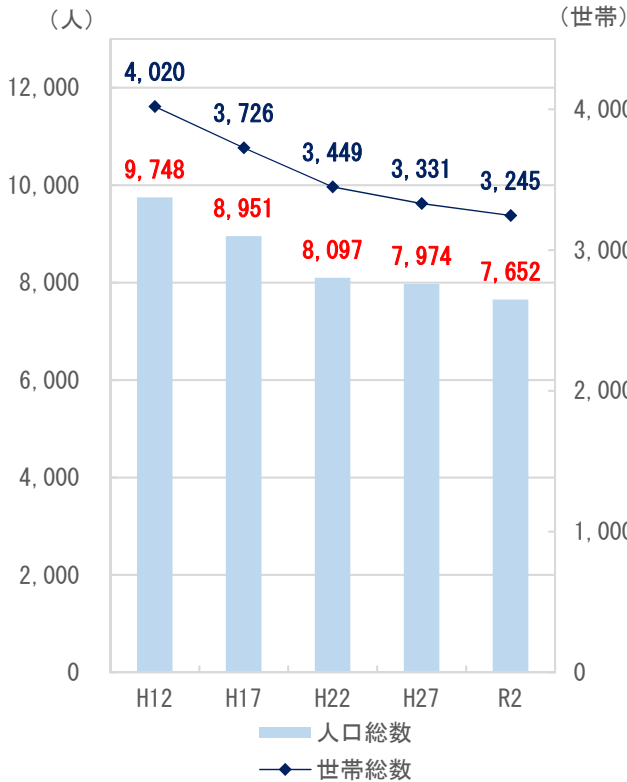


讃岐宮 香川県護國神社

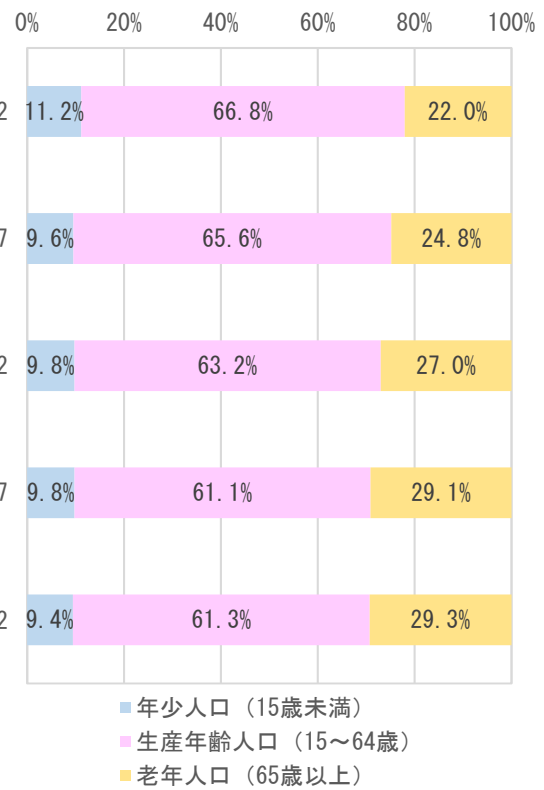


中心部の路地空間

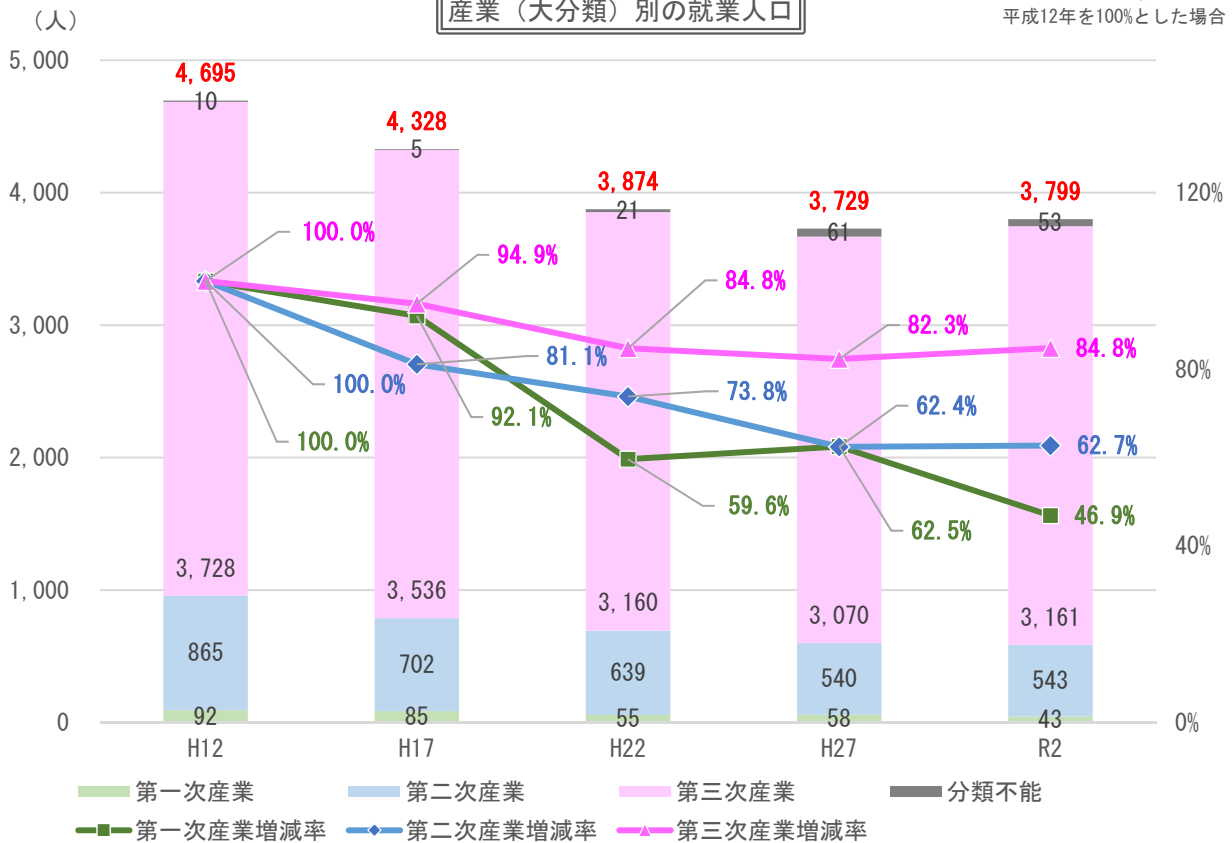
【中心エリア】
人口総数・世帯総数の推移



【中心エリア】
年齢3区分別人口の割合



【中心エリア】
産業（大分類）別の就業人口



資料：総務省 国勢調査

■地域別懇談会の意見（課題）

地域別懇談会を実施し、以下の課題を抽出しました。

項目		本エリアの課題
地域の にぎわい・ 活力	人口・ コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 今後は自衛隊の方や若い方たちと関わっていく事も大事。 ➢ にぎわい広場で、マルシェやパン祭、また地元の野菜を売ったりと、個々で出店できないか。 ➢ にぎわい広場でのイベントは、地域ぐるみで協力して開催しないと盛り上がっていかない。過去に地域の協力を得られなかったこともある。 ➢ 大規模なものよりも、規模の小さな、例えば産直市場やカフェのようなイベントが大事。 ➢ 消防団・自衛隊・ファミリー世帯等を巻き込んだ交流の創出が必要。
	産業・ 都市機能	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 人口増加だけではなく、企業の誘致や担い手の育成が必要。 ➢ 望ましいにぎわいは、わいわいにぎわうのではなく、静かな環境で心が安らぎ、公共施設も整っていること。
地域の 資源・ 環境	自然的環境・ 景観	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 古い歴史や文化のある都市なので、憩いの場所を増やしていきたい。 ➢ 公園に遊具があれば子どもが喜ぶので、遊具を増やしてほしい。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 空き家のリノベーションでは、移住希望者と所有者を結びつける仕組みが必要。 ➢ 空き家を壊して広い空き地にしたが、4m以上の進入道路がないため車が入れない。 ➢ 中心部に駐車場がなく観光客の受け入れが困難なため、周辺に駐車場の設置が必要。 ➢ 市街地内の低未利用地を活用した小規模なイベント等を通じたコミュニティの創出が必要。
地域の 暮らし・ 安全安心	都市施設 (インフラ・建築、 公共交通)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 車道と歩道が分かれていて機能的に見えるが、面白みがない。歩行者の視点に立った整備ができれば良い。 ➢ ぐるぐるとバスが巡回しているが、本数が少なく使いにくい。タクシー会社と連携してはどうか。 ➢ 青葉保育所がなくなったのは、駐車場がなかったことも大きい。
	都市防災	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 空き家で中高生が喫煙している。野良犬や猫が住み着いたり、泥棒が侵入したという報告もある。 ➢ 中谷川は集中豪雨のたびにあふれるため、引き続き防災対策が必要。

■将来像・方針

本エリアについては、にぎわいと憩いを軸としたまちづくりに努めることとし、将来像を以下に定めます。

歴史・文化に満ち、市内外の人が交流する 居心地の良いまち 中心エリア

また、地域別懇談会での意見への対応、将来像の実現に向け、本エリアの方針を以下に定めます。

【 中心エリアの方針 】

【地域のにぎわい・活力】

人口・コミュニティ ～市役所やにぎわい広場等を中心とした若い方や自衛隊も含めた交流づくり～

- ・本エリアは学校や自衛隊があり、これらに属する若い方を巻き込んだ交流づくりが大切です。そこで、市役所やにぎわい広場でイベント等を開催しながら、交流を促進します。
- ・市街地内では、日常生活にうおいをもたらす小さなイベントを中心として、にぎわいや交流を創出します。

産業・都市機能 ～商業機能等の強化と働く場づくり～

- ・かつては商店街等に多くの商業機能がありました。こうしたにぎわいを取り戻すためにも、商業機能を始め、時代に沿った都市機能の向上を図ります。
- ・本エリアは、企業誘致等に大規模な用地を確保することが難しくなっています。そこで、空き家を活用したサテライトオフィス等、アフターコロナの働く場づくりを展開します。

【地域の資源・環境】

自然的環境・景観 ～まちなかにおける憩いの場づくりと子どもが遊びたくなる公園づくり～

- ・歴史・文化に関する資源が多い一方、休憩や交流ができる場所は不足しています。まちなかの回遊性の向上に向けて、憩いの場づくりに努めます。
- ・身近な公園においては、遊具がない、駐車場がない等、魅力的・実用的とは言えません。そこで、公園施設の充実を検討します。

土地利用 ～空き家・空き地を活用した住環境の向上～

- ・古くから市街地が形成された本エリアでは、道路や宅地が狭く、住環境が良いとは言えません。そこで、区画再編などの方法により空き家・空き地を活用し、住環境の向上に努めます。

【地域の暮らし・安全安心】

都市施設（インフラ・建築） ～市役所・図書館を中心とした、歩いて楽しい都市づくり～

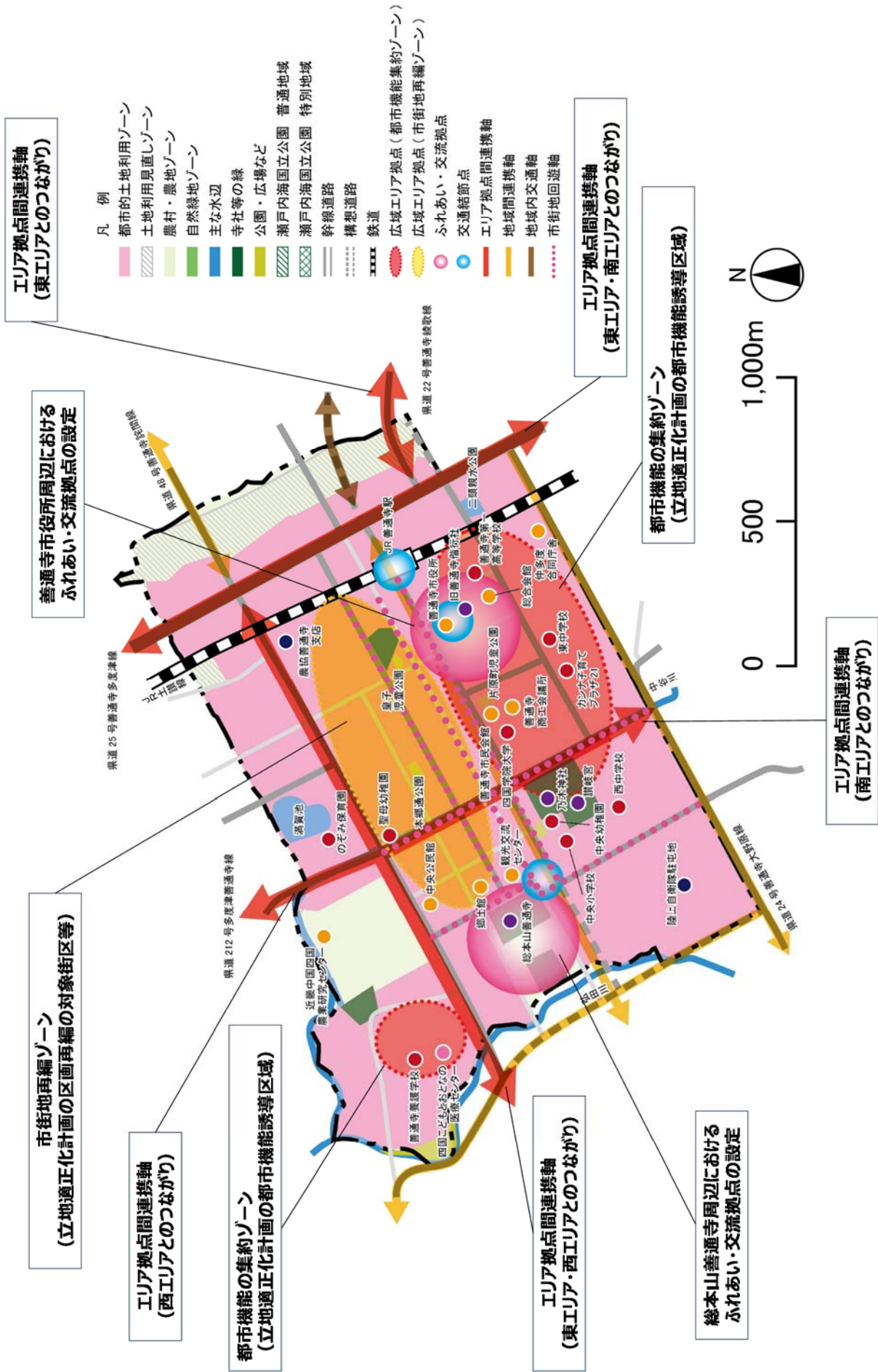
- ・新しくできる市役所・図書館を中心に、歩いて楽しい魅力的なインフラ整備を推進します。

都市施設（公共交通） ～公共交通の結節点等の整備～

- ・各エリア拠点から本エリアへのアクセス性、また本エリア内での回遊性の向上に向け、公共交通の結節点等の整備を検討します。

都市防災 ～老朽空き家の除却等と中谷川等の浸水対策の強化～

- ・本エリアは特に空き家が多くなっており、犯罪や火事等につながる恐れがあるため、老朽空き家の除却・避難路の確保・建築物の不燃化等に努めます。
- ・中谷川は集中豪雨の度に浸水被害を出しており、これらの浸水対策を強化します。



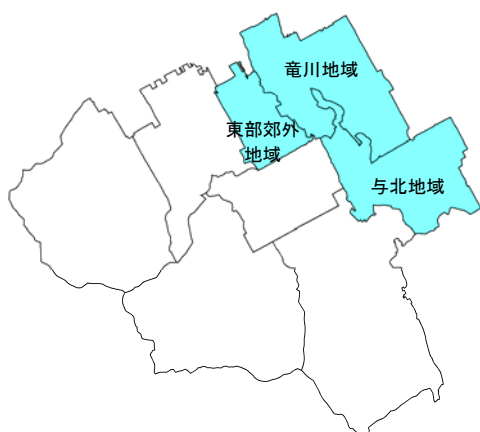
6-3. 東エリア

■現況

平成12年に10,834人だった人口は、令和2年に10,738人（平成12年の約99.1%）に減少しています。一方、世帯数は増加傾向であり、1世帯当たりの人口が減少しています。

高齢化率（老年人口の割合）は、平成12年の21.9%から、令和2年には30.3%に増加しています。一方、年少人口の割合は微増傾向から減少傾向に転じています。

就業人口は全体的に減少傾向であり、平成12年から令和2年の間に、342人減少しています（平成12年の約93.7%に減少）。



町丁名 構成	【東部郊外地域】 下吉田町、稲木町 【竜川地域】 木徳町、原田町、金蔵寺町 【与北地域】 与北町
基礎指標 (令和2年 国勢調査)	面積： 約 1,016ha
	人口： 10,738人
	世帯数： 4,453世帯
	年少人口割合： 13.9%
	老年人口割合： 30.3%
就業人口： 5,063人	



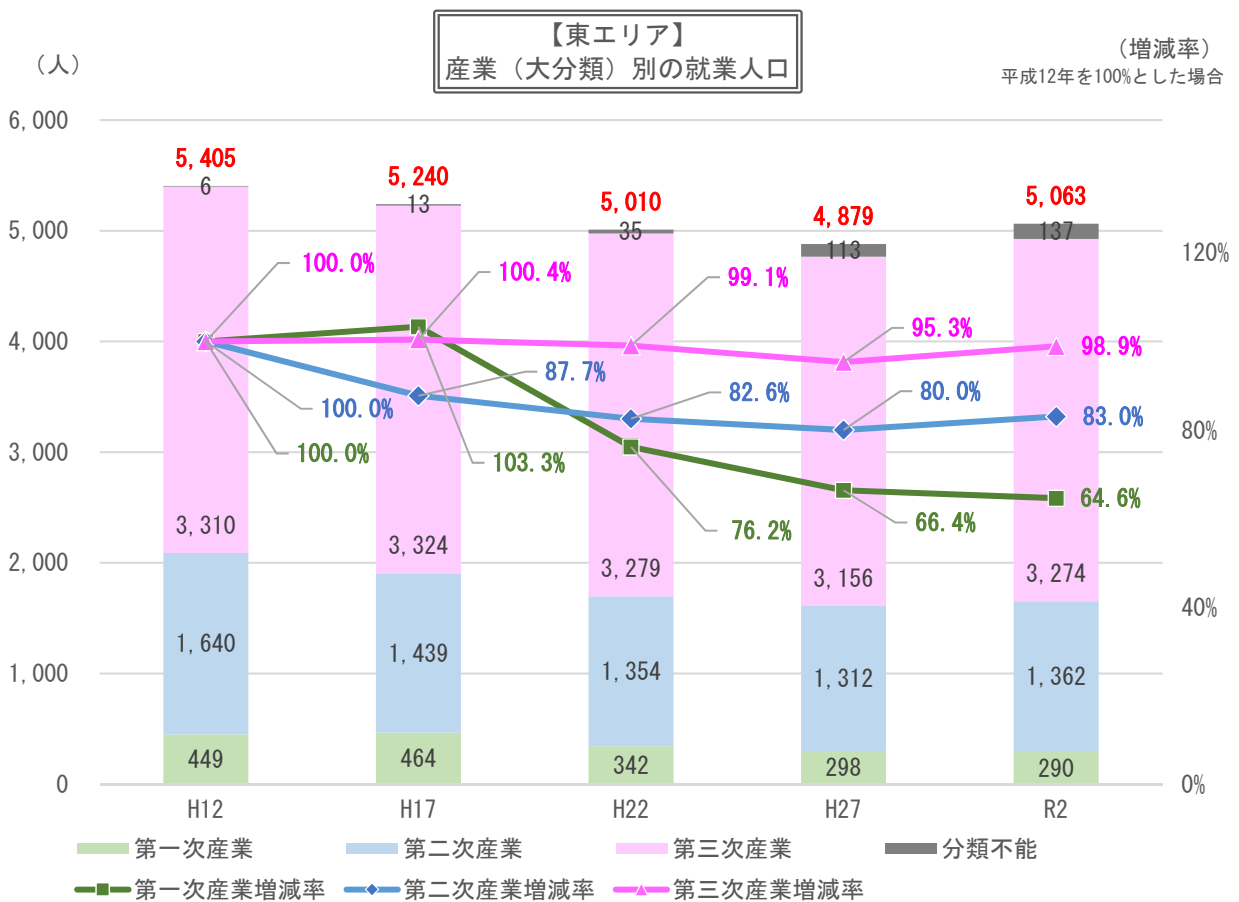
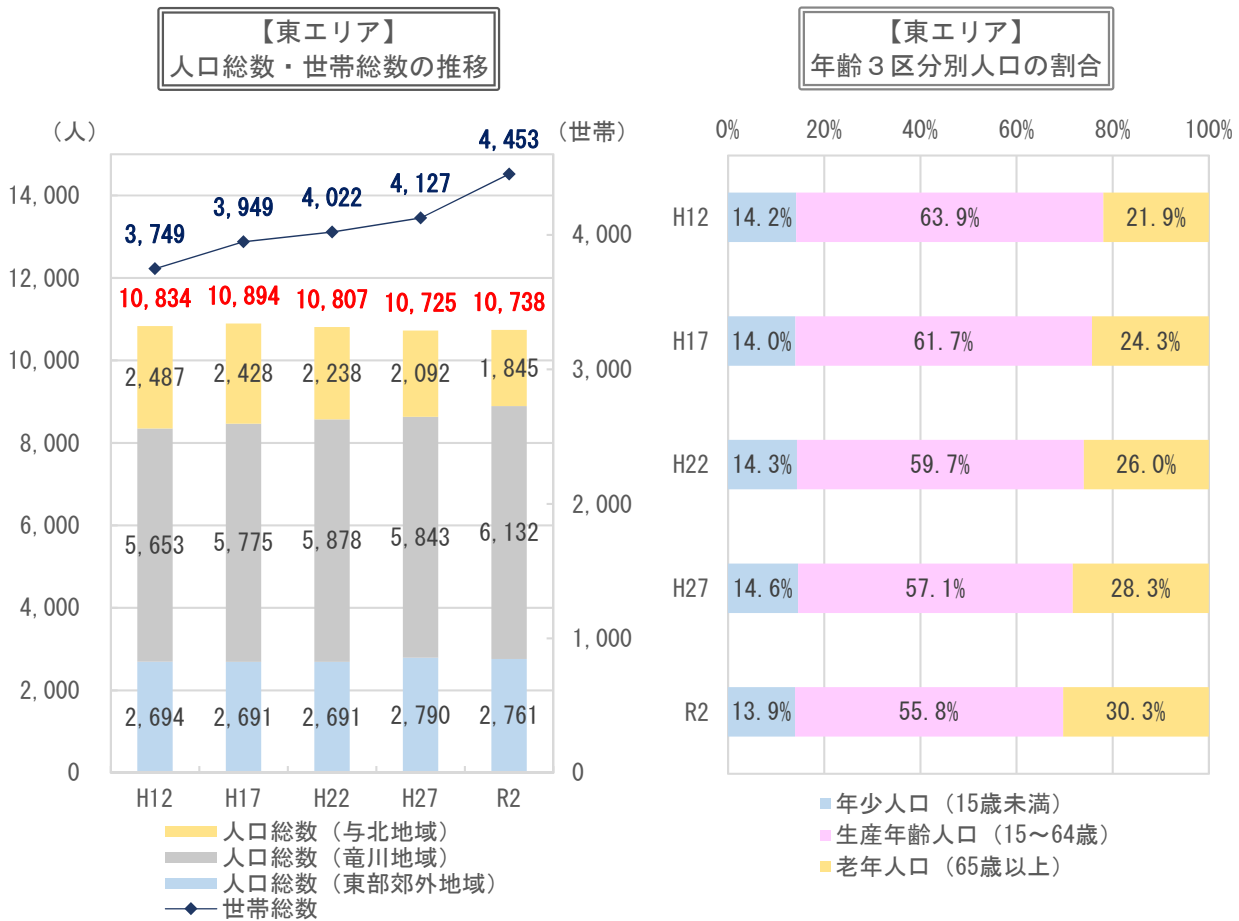
吉田八幡神社（東部郊外地域）



善通寺IC（竜川地域）



村上池運動公園（与北地域）



資料：総務省 国勢調査

■地域別懇談会の意見（課題）

地域別懇談会を実施し、以下の課題を抽出しました。

項目		地域	本エリアの課題
地域のにぎわい・活力	人口・コミュニティ	東部郊外	➢ 新住民と旧住民の交流が少なくなっている。
		竜川	➢ 公民館を小学校周辺へ移転する等、コミュニティ機能の向上が必要。 ➢ 村上池のつつじの評判が良く、道路も整備されている。憩いや交流の拠点としての活用が必要。
		与北	➢ 日常的な会話や、顔合わせができる場所があれば良い。 ➢ 鉢伏公園には大きな駐車場がなく、大規模なイベントをしたくてもできない。
	産業・都市機能	東部郊外	➢ 地域内は商店等が少なく、車が使えなくなると不安である。
		竜川	➢ 古民家を民宿や店舗等へ活用するなど、空き家の活用が必要。
		与北	➢ 耕作放棄地は、商業施設や住宅よりも産業や農業に活用すべき。
地域の資源・環境	自然的環境・景観	東部郊外	➢ 地域資源であるオニバスの保存が必要。
		竜川	➢ 新たな宅地化が進んでいる地域に、子どもたちが遊べる公園が必要。 ➢ スポーツを楽しめる施設・公園が近くにない。
		与北	➢ 桜の木を植えたら植えっぱなしのため、適切な維持管理が必要。 ➢ 買田池で撮る讃岐富士は、逆さ富士のように映り、資源として活用したい。
	土地利用	東部郊外	➢ 今後、地域内での大きな開発は望ましくない。
		竜川	➢ 農業振興地域で宅地化が進み、本来の趣旨と違う土地利用がされている。土地利用方針の再編が必要。 ➢ 土居団地の居住者が少なくなっており、今後の活用検討が必要。
		与北	➢ 家を建てさせてくれる場所がないため、自分たちの田んぼに建てるしかない。
地域の暮らし・安全安心	都市施設（インフラ・建築、公共交通）	東部郊外	➢ 電動バスの導入や公共交通の利用促進による二酸化炭素排出量の削減が必要。 ➢ 前池のオニバスが有名になってきているが、前面の道路が狭い。
		竜川	➢ JR 金蔵寺駅やバスターミナルを起点としたコミュニティバスなどの公共交通の充実が必要。 ➢ インターチェンジ周辺にトラックの物流センターが立地しているため、交通事故の対策が必要。
		与北	➢ 細い道が多いため、公共交通の車両も軽自動車くらいの大きさが望ましい。タクシー業者と連携ができないか。
	都市防災	東部郊外	➢ 学校や幼稚園周辺の道路が狭く危険なので、生活道路の拡幅が必要。 ➢ 自主防災組織・防災訓練への若い人の参加が少なくなっている。
		竜川	➢ 金倉寺周辺等、緊急車両が通れない箇所があるので、道路拡幅などの整備が必要。
		与北	➢ -

■将来像・方針

本エリアについては、新たな拠点形成を軸としたまちづくりに努めることとし、将来像を以下に定めます。

交通利便性の高い主要な道路網を活かした 新たな拠点形成を目指す 東エリア

また、地域別懇談会での意見への対応、将来像の実現に向け、本エリアの方針を以下に定めます。

【東エリアの方針】

【地域のにぎわい・活力】

人口・コミュニティ ～金倉寺や鉢伏ふれあい公園を中心とした交流づくり～

・金倉寺、鉢伏ふれあい公園、村上池周辺は、本エリアだけでなく、全市的に重要な資源です。これらにおける駐車場等の利便性を向上しながら、若い方から高齢の方まで新旧住民の交流を促進します。

産業・都市機能 ～国道沿いやインターチェンジ周辺における企業誘致の促進～

・本エリアの国道沿いやインターチェンジ周辺は、丸亀市にも近く利便性が高くなっています。そうした利便性を活かしながら、企業誘致に努めます。

【地域の資源・環境】

自然的環境・景観 ～金倉川を活かしたエリアを縦断する自然・憩い空間の整備～

・市の天然記念物であるオニバスが生息する前池や農地、農業を支える出水といった自然資源の保全・活用、学校等と連携した取組みを継続し、水や緑と共存可能なまちづくりをめざします。

・金倉川は本エリアを縦断するように流れており、その近くに鉢伏山があります。こうした自然を憩いの空間として活用できるよう、整備に努めます。

土地利用 ～優良な農地の保全と居住地の集約・団地の活用～

・本エリアは、北部を中心に住宅開発が活発であり、優良な農地が虫食い状に消失しています。そこで、新たな住宅・商業の開発を基本的に抑制し、居住地を適切に集約しながら、優良農地の保全に努めます。

・居住者の減少が著しい住宅団地について、今後の活用方法を地域とともに検討します。

【地域の暮らし・安全安心】

都市施設（インフラ・建築） ～安全安心な都市施設の整備～

・国道沿道等、危険が想定される箇所における事故対策、合併浄化槽などの施設の整備・周知に努めます。

都市施設（公共交通） ～交通連携軸の設定と中心地域へのアクセス性の向上～

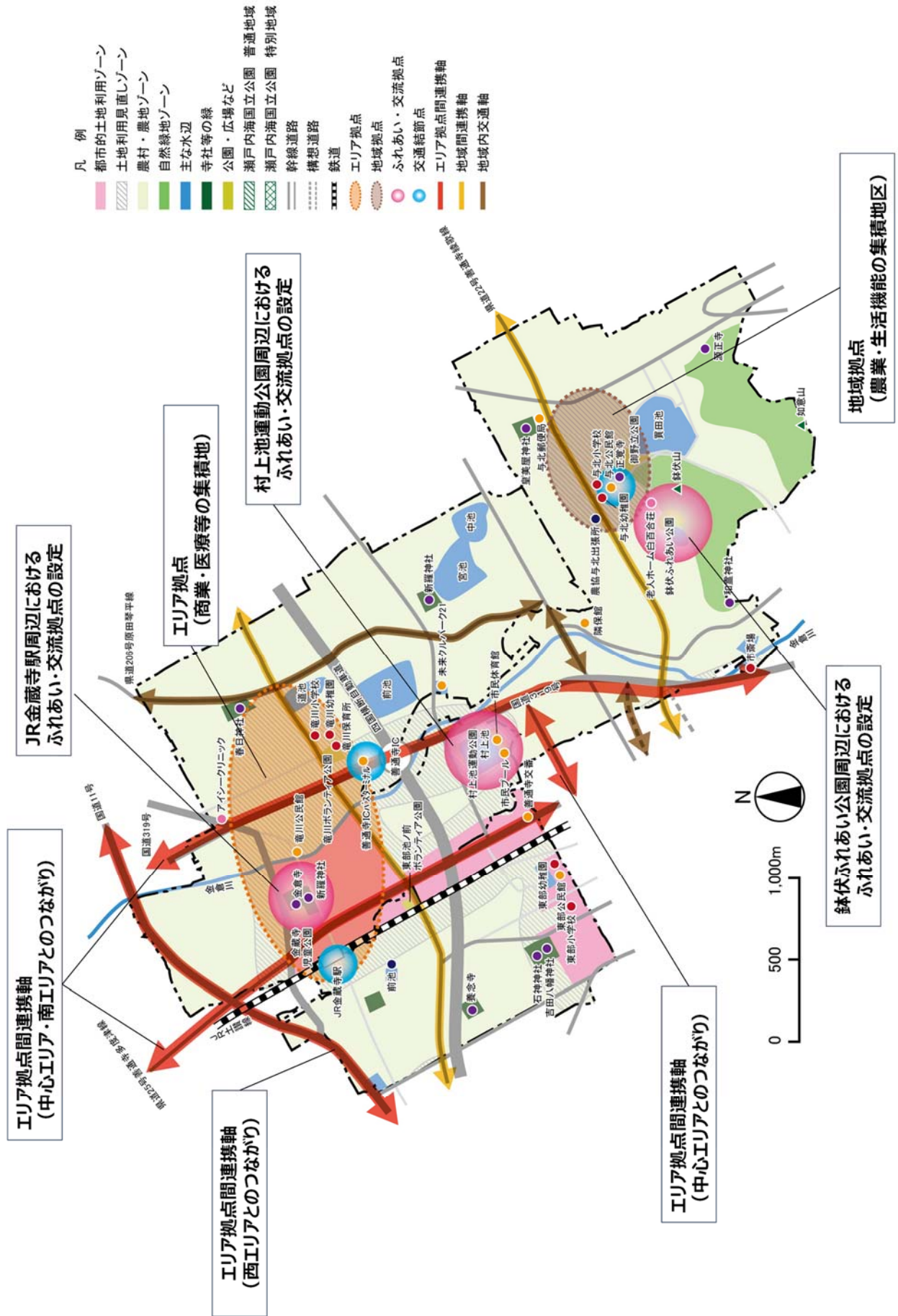
・国道11号・国道319号・県道25号等をエリア拠点間連携軸、県道22号等を地域間連携軸として設定し、本エリアの各拠点から中心エリアへのアクセス性を向上します。

・JR金蔵寺駅や善通寺ICバスターミナルを拠点とし、地域や企業と連携して公共交通の利便性を向上します。

都市防災 ～金倉川の浸水への対策強化・消防活動困難区域の解消～

・本エリアは、金倉川を有しており、決壊時には特に被害が大きいことが想定されます。そこで、金倉川を始めとした浸水対策の強化に努めます。

・金倉寺周辺は、道路整備等により緊急車両の通行が困難な区域を解消します。



6-4. 西エリア

■現況

平成12年に7,066人だった人口は、令和2年に6,230人（平成12年の約88.2%）にまで減少しています。一方、世帯数は増加・維持傾向であり、1世帯当たりの人口が減少しています。

高齢化率（老年人口の割合）は、平成12年の21.0%から、令和2年には33.5%に増加しています。一方、年少人口・生産年齢人口の割合は減少し続けています。

就業人口は全体的に減少傾向であり、平成12年から令和2年の間に、637人減少しています（平成12年の約82.7%に減少）。



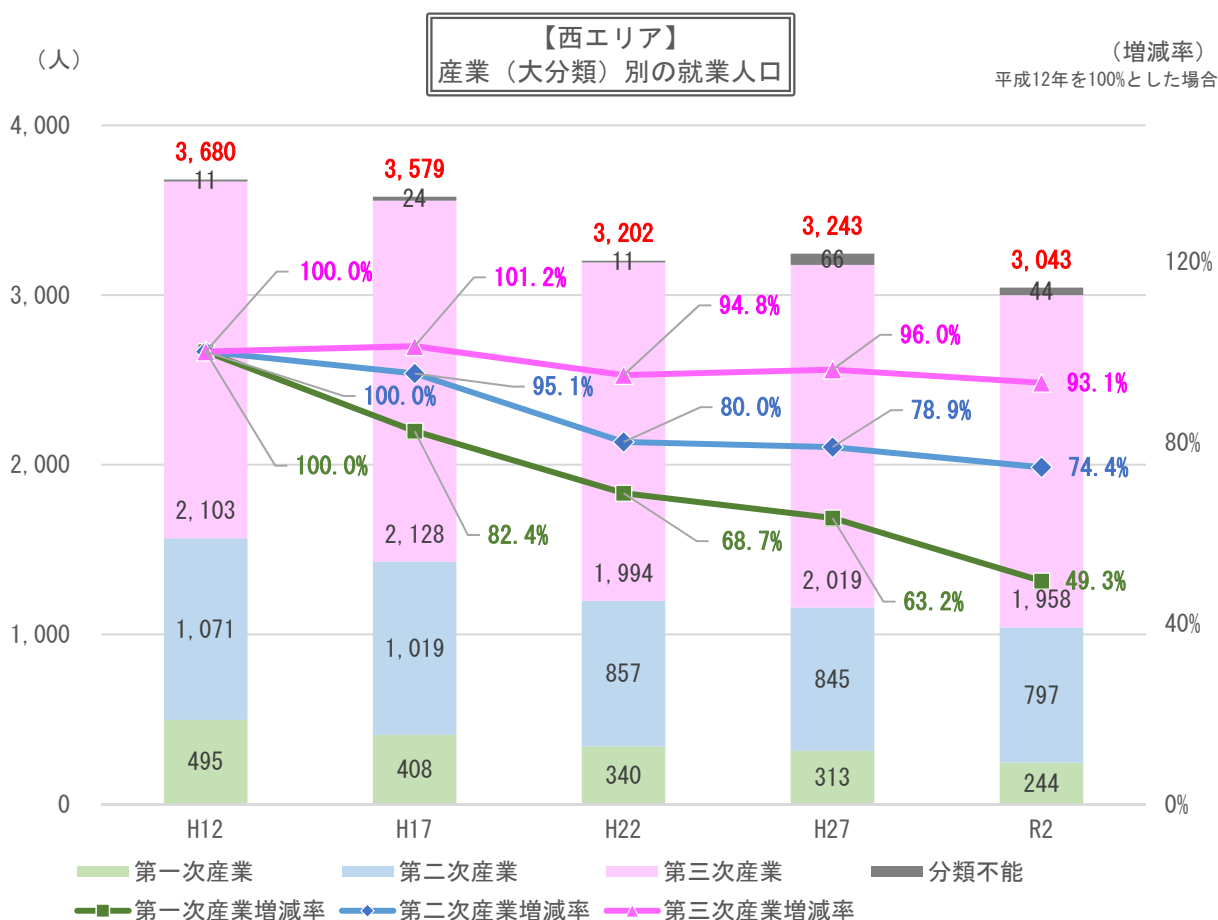
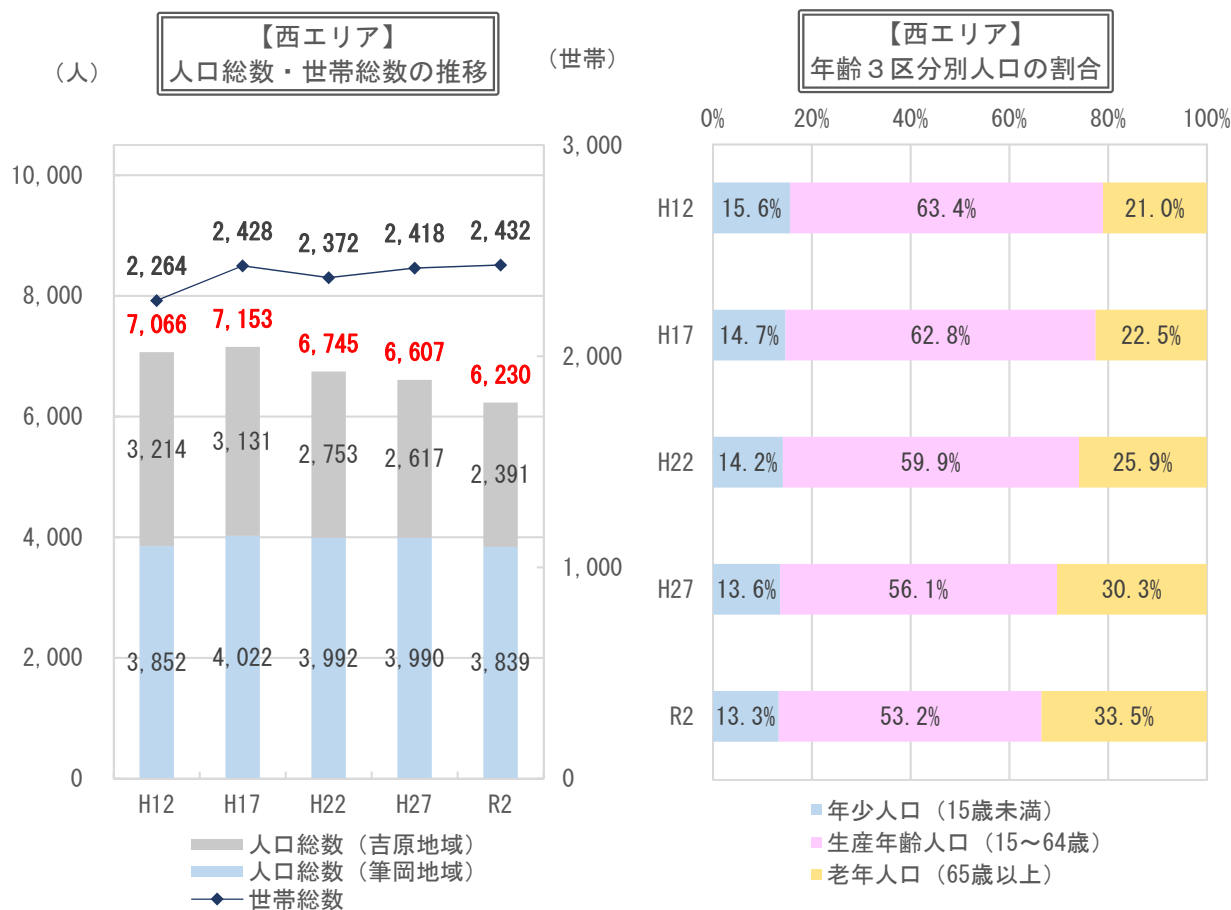
町丁名 構成	【筆岡地域】中村町、弘田町 【吉原地域】吉原町、碑殿町
基礎指標 (令和2年 国勢調査)	面積： 約1,102ha
	人口： 6,230人
	世帯数： 2,432世帯
	年少人口割合： 13.3%
	老年人口割合： 33.5%
就業人口： 3,043人	



ひまわり畑（筆岡地域）



吉原大池農村公園（吉原地域）



資料：総務省 国勢調査

■地域別懇談会の意見（課題）

地域別懇談会を実施し、以下の課題を抽出しました。

項目		地域	本エリアの課題	
地域のにぎわい・活力	人口・コミュニティ	筆岡	<ul style="list-style-type: none"> ➢若い方の自治会等への参加が少なく、コミュニティの形成が課題。 ➢農業を活用した教育・コミュニティ形成が必要。 	
		吉原	<ul style="list-style-type: none"> ➢花公園の集客力は大きい。花公園を中心に、民間も含めたイベントの展開ができれば良い。 ➢老後を静かに暮らすことができるが、一方で若い方を呼ぶことも必要。 ➢井戸端会議をするような場所がない。公民館が多世代で自由に使えるようになることが必要。 	
	産業・都市機能	筆岡	<ul style="list-style-type: none"> ➢農家住宅を、外国の方が宿泊できる民泊施設にできないか。 ➢市外から来て農業をする若い方もおり、今後積極的に若い農家の移住を進めるべき。 	
		吉原	<ul style="list-style-type: none"> ➢空き家等を民泊施設として貸し出すことができないか。 ➢吉原地域の特産品を売り出す特売所ができればすごく良い。 ➢キッチンカーが若い世代のコミュニティ形成に役立っており、花公園、地域内の駐車場や遊休地を活用してさらに展開していきたい。 	
地域の資源・環境	自然的環境・景観	筆岡	<ul style="list-style-type: none"> ➢ボランティア公園は、多くの方が利用しており、地域コミュニティの拠点としての活用が必要。 ➢仲村城址等の歴史資源や、かつてミカンを栽培していた山の自然を保全・活用していきたい。 	
		吉原	<ul style="list-style-type: none"> ➢遍路道、大窪寺跡、経塚古墳についても、新たな地域資源として活用していきたい。 ➢アサギマダラを活用したPRを展開してはどうか。 ➢ブランド力がある四角スイカに集中してはどうか。 	
	土地利用	筆岡	<ul style="list-style-type: none"> ➢今の田園環境を維持する静かな住環境を望む。 ➢耕作放棄地を活用して農地を集約する等の対策が必要。 ➢トラクターが通れる道路の整備等、農地のインフラ整備を進め、農業の法人化を推進してはどうか。 	
		吉原	<ul style="list-style-type: none"> ➢農業の後継者の育成が必要。 ➢静かな田園地域の維持。 ➢大きな空き家も多く、手入れをすれば民泊として活用できると考える。お遍路でも活用できるかもしれない。 	
	地域の暮らし・安全安心	都市施設（インフラ・建築、公共交通）	筆岡	➢ -
			吉原	<ul style="list-style-type: none"> ➢県道 217 号、国道 11 号、陸橋等、危険箇所の事故対策が必要。 ➢合併浄化槽に関する啓発活動が必要。 ➢市営住宅はあまり人も住んでおらず、新しい活用方法を検討すべき。
都市防災		筆岡	<ul style="list-style-type: none"> ➢災害時の要援護者の把握ができていない。 ➢平屋の農家住宅が多い一方で、災害の危険性が低く、防災に対する意識が低い。 	
		吉原	<ul style="list-style-type: none"> ➢二反地川は、大雨の際、増水による床下浸水などの危険性があり、対策が必要。（前回より継続） ➢大池の堤防が崩れれば被害が出る。 	

■将来像・方針

本エリアについては、歴史資源や農業等を軸としたまちづくりに努めることとし、将来像を以下に定めます。

公園、社寺等の既存資源や農産物等の特産品を活用し

交流を形成する 西エリア

また、地域別懇談会での意見への対応、将来像の実現に向け、本エリアの方針を以下に定めます。

【 西エリアの方針 】

【地域のにぎわい・活力】

人口・コミュニティ ～「市民集いの丘公園（花公園）」を活かした交流づくり～

- ・花公園は、本エリア内からだけでなく、市内外から多くの方が訪れます。そこで、本エリアの交流の拠点として位置づけ、多様な主体と協力しながら、キッチンカーを始めとしたイベントやまちづくり活動を行います。
- ・公民館や公園等を活用し、まちなかにおける交流スペースの創出に努めます。

産業・都市機能 ～国道 11 号と県道 212 号の交差点、吉原公民館周辺での都市機能の集約～

- ・国道 11 号と県道 212 号の交差点をエリア拠点、吉原公民館周辺を地域拠点とし、医療・福祉・商業等の日常生活施設等を誘導します。

【地域の資源・環境】

自然的環境・景観 ～地域資源を活用した観光ネットワークづくり、身近な公園の質の向上～

- ・人と歴史の交流を促進するため、甲山寺・曼荼羅寺・出釈迦寺・遍路道・天霧城跡・仲村城址等の多様な歴史資源を活用した観光ネットワークを形成します。
- ・身近な公園においては、駐車場がない、魅力的な遊び場がない等より利用者が減少していることから、質の向上に努めます。

土地利用 ～豊かな自然が育む田園環境の維持～

- ・四角スイカやキウイをはじめとした地域の特産品が多くあります。今後もそれらを活かした農業の育成に努め、農地に囲まれた穏やかな田園環境を維持するとともに、農業を教育やコミュニティの向上に活用します。
- ・トラクターが通れる道路の整備等、農地のインフラ整備を進め、農業の大規模化・法人化を推進します。

【地域の暮らし・安全安心】

都市施設（インフラ・建築） ～安全安心な都市施設の整備、市営住宅のあり方の検討～

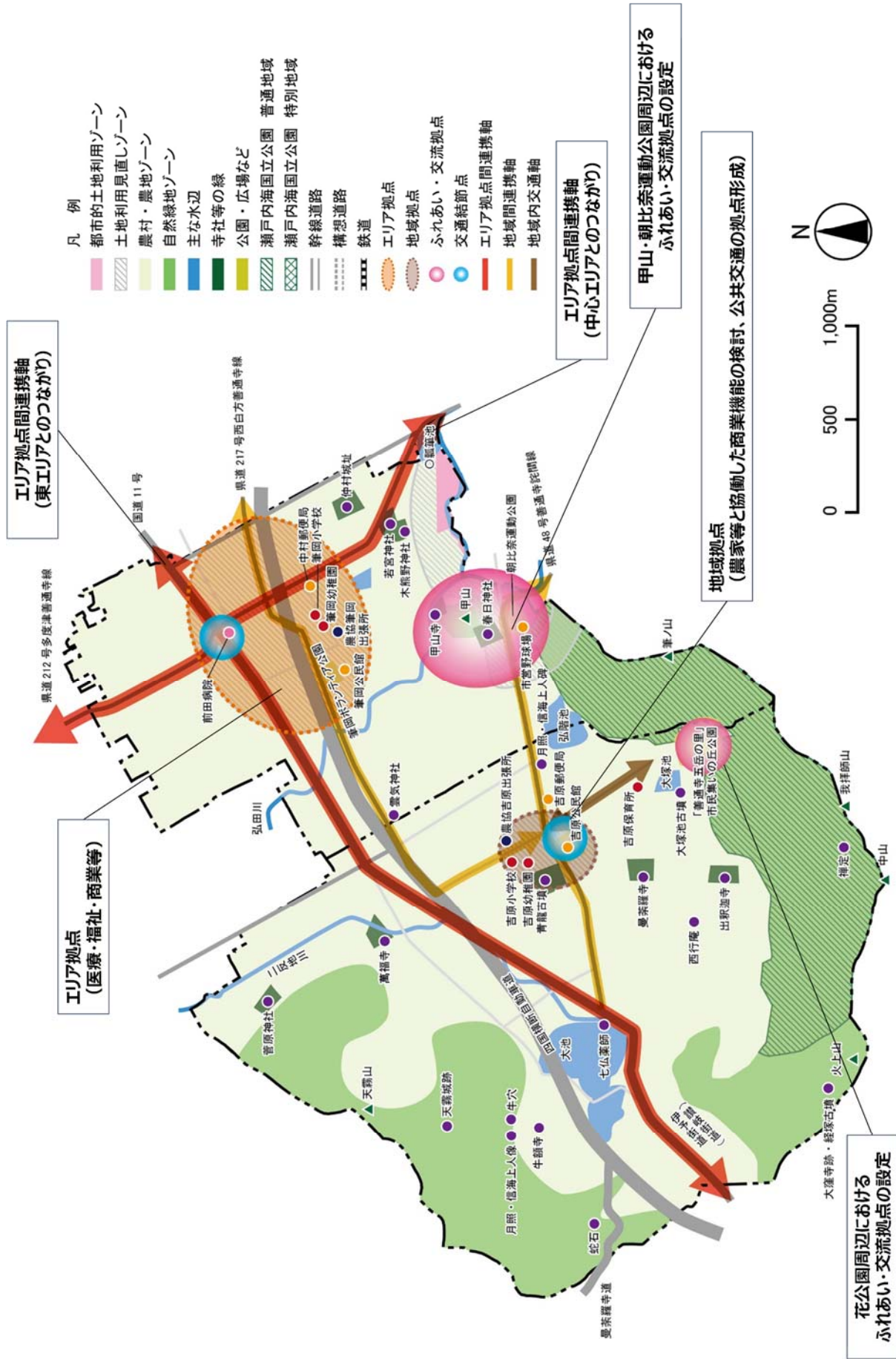
- ・国道 11 号沿道等、危険が想定される箇所における事故対策を推進するとともに、合併浄化槽などの施設の整備・周知に努めます。
- ・市営住宅については、入居率が低くなっていること等を踏まえ、今後のあり方を検討します。

都市施設（公共交通） ～交通連携軸の設定と中心エリアへのアクセス性の向上～

- ・国道 11 号・県道 212 号をエリア拠点間連携軸、県道 48 号等を地域間連携軸として設定し、本エリアの各拠点から中心エリアへのアクセス性を向上します。

都市防災 ～液状化や内水被害への対策強化～

- ・液状化の危険性が高いほか、二反地川の内水被害等が想定されるため、これらの事前の対策に努めます。



6-5. 南エリア

■現況

平成12年に8,765人だった人口は、令和2年に7,011人（平成12年の約80.0%）にまで減少しています。世帯数も減少傾向にあります。

高齢化率（老年人口の割合）は、平成12年の18.8%から、令和2年には31.4%に増加しています。一方、年少人口・生産年齢人口の割合は減少し続けています。

就業人口は全体的に減少傾向であり、平成12年から令和2年の間に、778人減少しています（平成12年の約80.6%に減少）。



町丁名 構成	【南部地域】 大麻町、榎梨町、生野町 （市街地の一部を除く） 【西部地域】 善通寺町 （市街地の一部を除く）
基礎指標 （令和2年 国勢調査）	面積： 約1,388ha
	人口： 7,011人
	世帯数： 3,015世帯
	年少人口割合： 12.3%
	老年人口割合： 31.4%
	就業人口： 3,228人

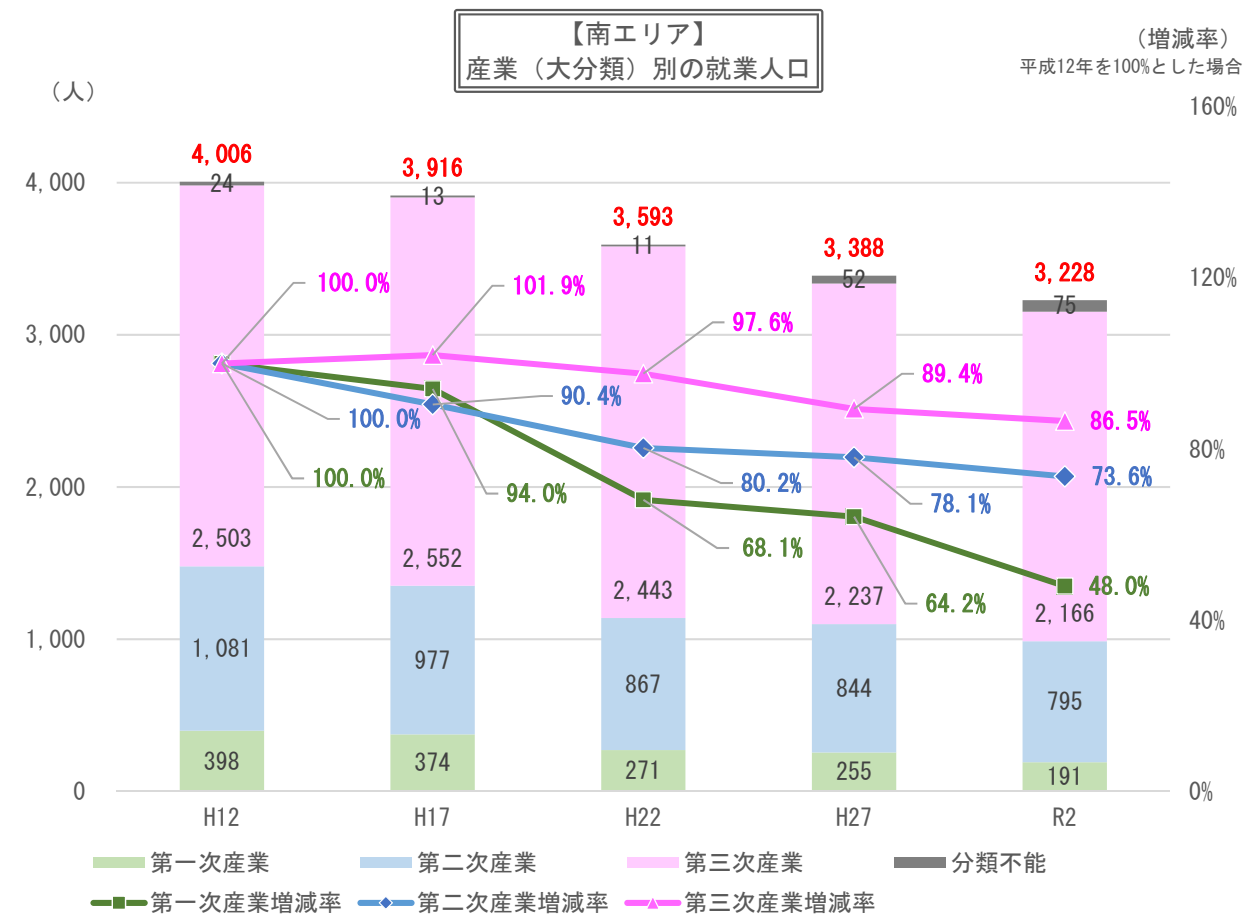
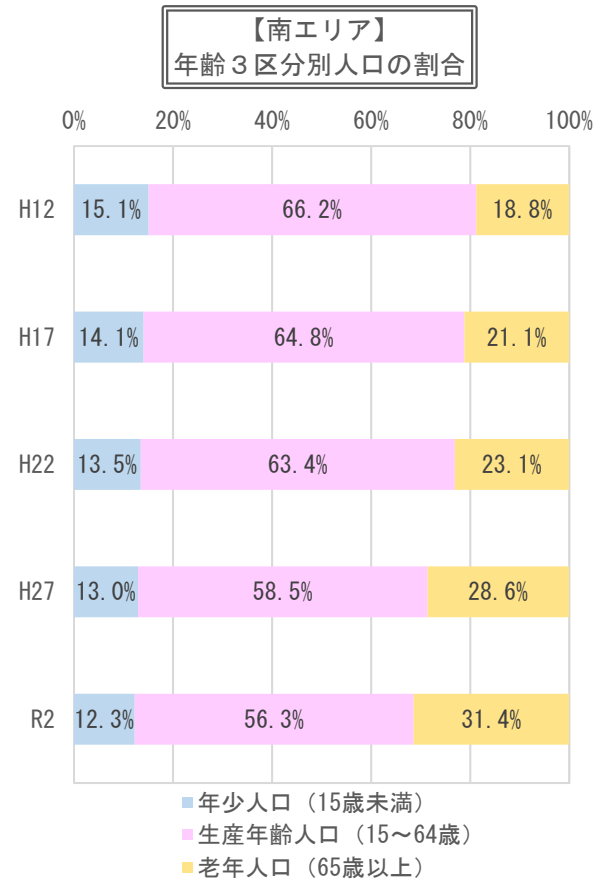
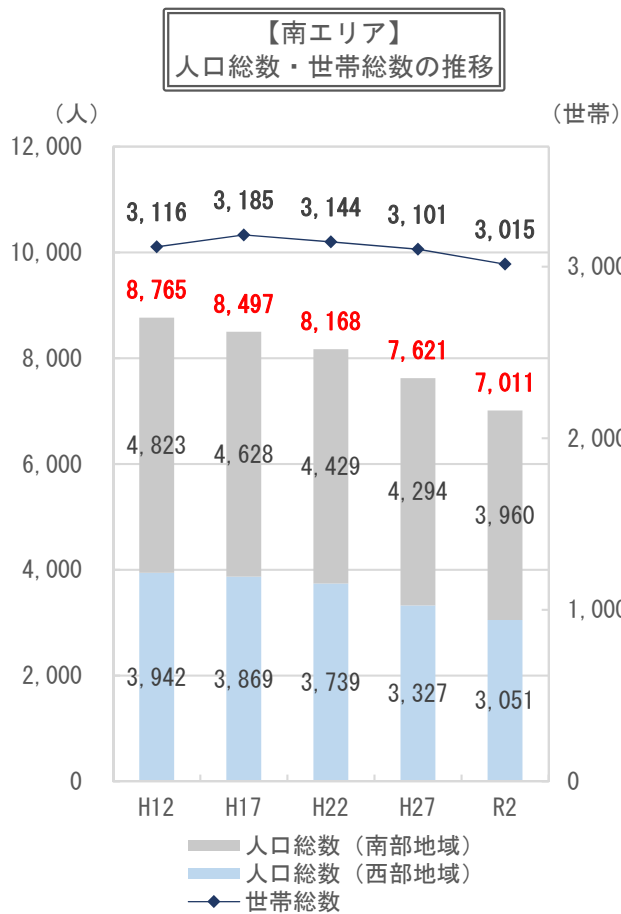
※生野町のデータは、建物棟数で中心エリア・南エリアに按分



琴平参宮電鉄跡 岩崎隧道（南部地域）



王墓山古墳（西部地域）



資料：総務省 国勢調査

■地域別懇談会の意見（課題）

地域別懇談会を実施し、以下の課題を抽出しました。

3つの方針（項目）		地域	本エリアの課題
地域のにぎわい・活力	人口・コミュニティ	南部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 保育所などでお年寄りが子どもの面倒を見るなど、多世代交流を行う事が必要。
		西部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域コミュニティの衰退は深刻な問題で、高齢化が急速に進んで、お年寄りの方は引きこもりになっている。 ➢ 単身者が多い住宅だと、どこでコミュニティに参加できるか分かっていない。 ➢ 善通寺大池は、西部地域を代表する資源であり、交流の場（親水空間）とすることが必要。（説明看板やマップ等の設置）
	産業・都市機能	南部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ お年寄りへの宅配や子どもたちの給食などで地産地消を実現するために、加工施設を整備してはどうか。 ➢ 農業について、個人経営ではなく地域等でみんなで経営すべき。
		西部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コンビニや病院がない。 ➢ 企業誘致にもう少し力を入れてもらいたい。 ➢ 大規模な農業をしている方が多く、ポテンシャルを活用すべき。 ➢ 古墳等の駐車場でキッチンカーができれば良い。
地域の資源・環境	自然的環境・景観	南部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 南部地域には公園が少ない。子育て環境を充実するために、公園が必要。
		西部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 子どもたちは遊ぶことができ、親は近くのベンチでコーヒーを飲みながらくつろげるような公園があるのが理想。 ➢ 大谷公園は広いが、遊具がなく、子どもが公園と認識していないと思う。 ➢ 古墳は観光スポットの一つであり、もっとアピールしていくべき。
	土地利用	南部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 耕作放棄されている農地は、市民農園や農地付き住宅として活用してはどうか。 ➢ 法人化等、農業が成り立つ仕組みが必要。
		西部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 空き家を社宅等にして、自衛隊や四国少年院、また近くの企業の方にPRしていくことが大事。 ➢ みかん畑が担い手不足で荒廃し、イノシシ等による被害が多くみられるため、耕作放棄地対策が必要。 ➢ 市営団地は居住者が少なくなっており、今後の活用方法を検討すべき。
地域の暮らし・安全安心	都市施設（インフラ・建築、公共交通）	南部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 市内の循環バスは、運行本数が少なくかつ、移動時間がかかるため利用しづらい。公共交通の再編が必要。 ➢ 市中心部と郊外を15分おきに結ぶもの、地域資源を結ぶものがほしい。
		西部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 水路に柵がなかったり大きな段差があったりするので、夜だけでなく明るい時間でも、子どもと歩いていると危険を感じる。
	都市防災	南部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自主防災組織を設置しているが、防災訓練等の参加者が集まらない。
		西部	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 弘田川は魚が泳いでいるのも見られない。整備されて綺麗になると、魚が泳ぐようになり、また氾濫も防げると思う。 ➢ 西部地域は、局地的豪雨が来たら一番危険な地域である。 ➢ 地域に点在する小さなため池は、管理されておらず危険。

■将来像・方針

本エリアについては、大麻山を軸としたまちづくりに努めることとし、将来像を以下に定めます。

大麻山の自然とその裾野に広がる古墳群等を活かした シビックプライドを育む 南エリア

また、地域別懇談会での意見への対応、将来像の実現に向け、本エリアの方針を以下に定めます。

【 南エリアの方針 】

【地域のにぎわい・活力】

人口・コミュニティ ～善通寺大池・地藏池・農業研究センター等、大麻山周辺での交流づくり～

- ・本エリアの南部地域・西部地域は、大麻山を後背に有しています。大麻山とその周辺の魅力を活用しながら、イベントや交流づくりを促進します。
- ・特に地藏池・善通寺大池・香色山周辺は、説明看板やマップを設置する等、拠点づくりに努めます。
- ・自衛隊の宿舎があることから、そうした住宅に住む若い方を巻き込みながら、本エリアのまちづくりを進めます。

産業・都市機能 ～地域の農家等と連携した商業機能の設置、農業の活用～

- ・コンビニや病院等の都市機能が少なく、利便性が低くなっています。そこで地域の農家等と連携しながら、商業等の都市機能の利便性を高めます。
- ・大規模な農業をさらに進めるほか、教育等さまざまな面で、農業のポテンシャルを活かすよう努めます。

【地域の資源・環境】

自然的環境・景観 ～豊かな自然や歴史資源を活かした公園づくり～

- ・豊かな自然環境や豊富にある古墳等の資源を活かして、子どもも大人も楽しめる公園づくりに努め、本エリアの魅力向上を図ります。

土地利用 ～豊かな自然が育む田園環境の維持～

- ・空き家・空き地が増えている一方、みかん畑等が後継者不足によって荒廃しています。そこで耕作放棄地や遊休地の利活用の方法について検討し、田園環境の維持に努めます。

【地域の暮らし・安全安心】

都市施設（インフラ・建築） ～安全安心な都市施設の整備～

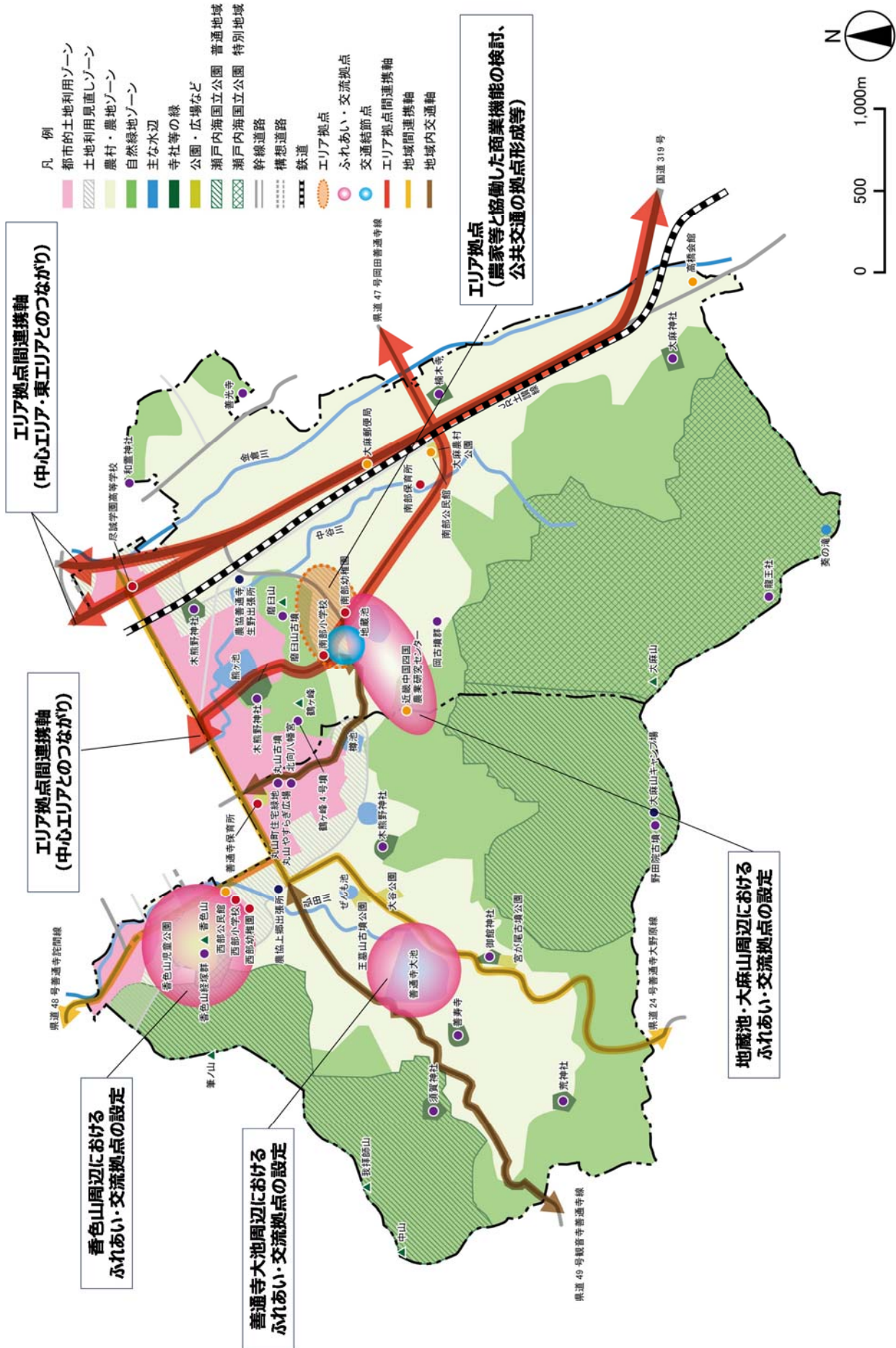
- ・農業が盛んな本エリアにおいては、農業用水路も多くなっています。これらの既存施設と共存しながら、安全で歩きやすい都市整備等に努めます。

都市施設（公共交通） ～交通連携軸の設定と中心エリアへのアクセス性の向上～

- ・国道 319 号・県道 47 号等をエリア拠点間連携軸とし、本エリアと中心エリア等のアクセス性を向上します。
- ・南部小学校周辺を拠点とし、公共交通の利便性を向上します。

都市防災 ～金倉川・弘田川・ため池等の浸水対策の強化～

- ・本エリアは、金倉川・弘田川・ため池等があり、浸水の危険性が高くなっています。そこで、これらの浸水対策を中心に、防災対策を進めていきます。



香色山周辺における
ふれあい・交流拠点の設定

善通寺大池周辺における
ふれあい・交流拠点の設定

地藏池・大麻山周辺における
ふれあい・交流拠点の設定

エリア拠点間連携軸
(中心エリアとのつながり)

エリア拠点間連携軸
(中心エリア・東エリアとのつながり)

エリア拠点
(農家等と協働した商業機能の検討、
公共交通の拠点形成等)